

イブキトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> Thunb. subsp. <i>ibukiense</i> (Nakai) Kadota	絶滅危惧 I 類
		キンポウゲ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しつつあり、個体数が危機的水準にまで減少している。	<p data-bbox="1123 367 1321 398">写真(山崎玲子)</p> 
形態の特徴	多年草。茎は直立し、ほとんど分枝せず、高さ30-150cm。葉は厚く、卵形～卵状長楕円形。花期は8-9月。花は4cm前後の烏帽子状で青紫色。雄薬は無毛で、葉が厚いなどの特徴があるが、トリカブト類は種類が多く、また、変異に富んでいるため区別が難しい。	
生態的特徴	石灰岩の露出するカルスト地形などの林中、林縁、草原などに生育する。	
分布状況	日本固有の種。中部・近畿地方の太平洋側、関東地方西部に分布する。県内では県南の中部と西部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の西部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、石灰岩地帯の生育地自体も限られている。	
保全対策	本種の生育する草原等の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅱ」平凡社(1982)	

文責: 佐藤和良